

# 保育施設の園庭（playground）に関する研究動向

—国内外の先行研究のシステマティックレビューから—

中田 範子<sup>1</sup>、香曾我部 琢<sup>2</sup>、石倉 卓子<sup>3</sup>、竹田 好美<sup>3</sup>

園庭研究を対象にシステマティックレビューを行い、テキスト・マイニングにより動向を整理し、考察することを目的とする。その結果、8項目（1.園庭でのケガのリスクと身体的発達への効果に対する保育者の意識の重要性、2.屋外遊びに必要な環境と子どもの育ちの可能性、3.園庭での子どもの年齢的な特徴を探る様々な研究方法、4.園庭で発達する子どもの多様なスキル、5.子どもの遊びや生活に必要な物理的・心理的空間の分析、6.園庭での子どもの社会的行動や相互作用の分析、7.小学校生活を踏まえた保育施設への介入プログラム導入効果、8.子どもの身体活動を促す保育者の認識と物理的外的要因）が導出された。

また、園庭研究は、子どもの安全性と園庭の教育的な役割、子どもの身体活動と保育者の援助・意識・態度との関連に着目しており、子どもの現状と関連する要素や現状に対する介入プログラムの有効性を実証する研究が多く蓄積されていることが考察された。

キーワード：園庭 システマティックレビュー 保育施設 屋外遊戯場

## 1. 問題と目的

近年、特に都市部市街地では十分な広さの園庭が確保できない保育施設は多く存在している。そのような保育施設では、子どもの戸外遊びを十分に確保するため、園庭の他に近所の公園等を日常的に利用して遊ぶ園が多い。保育時間中に公園に移動する途中で交通事故に巻き込まれるという危険性があるながらも、現に、園庭の代替として近所の公園等を利用している園は増加傾向にある<sup>注1</sup>。

これは、待機児童対策として都市部の保育所の増設が望まれることに対応した、保育所の園庭（屋外遊戯場）の設置基準の緩和が契機となっている。2001年3月に厚労省雇用均等・児童家庭局より通知された、「待機児童解消に向けた児童福祉施設最低基準に係る留意事項等について」<sup>注2</sup>により、屋外遊戯場（園庭）の設定に緩和政策がとられるようになった。現在、「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準（児童福祉施設最低基準）から名称変更」に保育所の設置に関する基準が定められているが、各自治体の定める条例には、児童福祉施設の設備及び運営については「従うべき基準」と「参酌すべき基準」<sup>注3</sup>を設けている。

このような状況で、狭小な園庭をもつ保育施設の保育や子どもの経験内容の質の保証を様々な視点から問題提起<sup>1,2)</sup>されている一方、園外へ移動中の子どもたちの経験内容に肯定的な意義も見出されている<sup>3)</sup>。しかし、今ある狭小な園庭で子どもが多様で豊かな経験が可能となる、保育者の環境構成や援助の方法について言及する論調は見当たらない。そこで、今ある園庭環境を多様な視点でとらえることが求められ、

1 東京家政学院大学現代生活学部児童学科

2 宮城教育大学教育学部家庭科教育講座

3 富山国際大学子ども育成学部子ども育成学科

これまでに蓄積された園庭に関する研究の動向を調査することが必要であると考えた。

まず、国内の先行研究として、園庭環境にはどのような要素があげられているのかを概観する。秋田ら(2017)は、わが国の園庭研究の動向として、「園庭そのものの質の観点から検討した研究は、わが国にはない」と指摘したうえで、「具体的に配置されている園庭環境の構成要素やその付置・レイアウトや場の分節化などの「構造の質」に目を向ける必要がある」と述べている。ここで言われている「構造の質」とは、園庭の質向上の6観点のうちの一つを指す。その他、園庭をめぐる保育活動の「プロセスの質」、どのような機能を園の教育や理念や方針によって意味づけているのかという「志向性の質」、園庭に保育者が関わりどのように環境の質を確保・向上しているのかという「実施運営の質」、これらの園庭の質が子どものコンピテンシー育成にどのように影響を及ぼすのかという「成果の質」を挙げ、「それらを探究して、戸外での保育の質の確保と向上のあり方を検討・吟味していく枠組みや基準を準備し、機能や成果との関係を問うていくことが必要である」と国内の園庭研究のあり方について問題提起している<sup>4)</sup>。園庭環境のどのような質に着目したかによって、導き出される園庭研究の構成要素(これまでの園庭研究で着目されてきた要素、明らかにしてきた要素)には違いがあると考えられるが、その後の研究では、石倉ら(2019)が、富山県のA認定こども園において、保育教諭が園庭での幼児の遊びの質を5領域の内容から捉えることを試み、遊びの場に着目して考察した結果、幼児期に指導する事項全53項目中29項目が経験されていたことを報告している<sup>5)</sup>。

そして、秋田ら(2020)は、保育の質の向上において園庭は保育室と同様に極めて重要な意味を持つと考え、園庭の全国調査<sup>6)</sup>を行い、園庭の物理的環境として、「自然と触れ合うことができる環境」、「体を使って楽しむことができる環境」、「自由に発想し工夫ができる環境」、「休憩や穏やかな活動ができる環境」、「園庭全体の活動を支えるための環境」、「保護者や地域の方と交流できる環境」として、土や砂遊び場をはじめとする園庭環境多様性指標15項目を作成した。

竹田ら(2020)は、認定こども園の園庭に関する質問紙調査において、幼児が豊かな経験をしていると保育者が感じた遊びに対し、幼児の思いをとらえて行った援助について自由記述された105園のデータを、KH Coderにて、頻出語と共起ネットワークを用いて分析し、11のSubgraph「園庭における自然物を使った遊びの豊かさと遊びの広がり」「自然素材や道具と関わる過程での対象への関わり方や操作方法への気付きと行動」「自然物の特性や道具の扱い方に気付きながら展開される遊び」「直接的な援助が生み出した競争的な状況において体を動かす楽しさと、魅力的な遊びと園児同士の知識や言語が促す関わり」「多種多様な物的環境がもたらす発想や遊びの豊かさ」「園庭で好きなだけ使える可塑性のある素材を利用した構成遊び」、「園庭が生み出すルールとその遵守」「自然素材の様々な性質を感じられる道具や素材」「自然物の特性の遊びへの活用」、「園庭における遊びの多様性と拡張性」「集中力と思考力を深め、複数のストラテジーを用いて問題解決を目指す志向性」を幼児の豊かな経験として導き出している。この研究では、自然環境や固定遊具・可動遊具も含めた豊かな物的環境、教師や友達などの人的環境が豊かな遊びに関係していることを示唆している<sup>7)</sup>。

石倉ら(2020)は、認定こども園の園庭における質問紙調査において、幼児の思いをとらえて行った保育者の援助について自由記述された105園のデータをKH Coderにて頻出語と共起ネットワークで分析し、9つのsubgraph「自然物の特性を活かした遊びの援助」「身近な素材の特性を利用して遊ぶ姿に共感しながらの援助」「園庭での物の準備と援助の必要性を意識した関わり」「園児の思いを受け止めるための素材や道具の準備などの協働的な援助」「草花という自然物の色の気付きを促す援助と、色を出せるような素材や方法の提供」「自然物を使った遊びの発展を生み出すための保育者の行為による直接的な援助」「遊びを楽しみながら援助する」「園庭での遊びを楽しいと思えるような配慮」「自然物に対する発見や気付きを共有できる援助」として分析した。この研究では、保育者自身が自然物の多様な特性と道具の関係性、その教育的価値を確かめ、学ぶことで、幼児の豊かな経験が保障される援助が可能になるこ

とを示唆している<sup>8)</sup>。

このように、石倉ら(2020)、竹田ら(2020)は、秋田ら(2017)の言う、「構造の質」のうち、「プロセスの質」にあたる、「園庭での子どもはどのような豊かな体験をしているのか」「園庭での子どもの思いを捉えて保育者はどのような援助をしているのか」という視点から、園庭における保育の構成要素を導き出した。

ところで、近年、保育・教育の領域においてもエビデンスベースドの重要性が指摘される中で、多くのランダム化比較実験による先行研究を収集し、それらの知見を統合し、よりエビデンスの高い知見を得るメタ分析やシステマティックレビューが散見されるようになってきている。メタ分析やシステマティックレビューは、現在、看護学分野で広がり、発展しつつあるが、保育学分野では、国内の研究では見られるものの<sup>9,10)</sup>、国外の研究まで広げたシステマティックレビューは見当たらない。

本研究では、前述の「今ある園庭環境を多様な視点で捉える」という観点から、これまで蓄積された園庭を対象とした国内外の先行研究をレビューし、園庭研究の構成要素を導き出して、その研究動向を考察することを目的とする。ただし、自分たちの都合の良い論文のみを収集して「ナラティブ(叙事的)レビューと呼ばれる文献レビューの方法」<sup>11)</sup>をとるのではなく、園庭に関する先行研究を網羅し、かつ先行研究の知見を分類しつつ統合するために、システマティックレビューを援用することとした。それによって、将来的には、それまで見いだせなかった園庭環境の構成要素が見いだせるのではないかと考えた。

## 2. 方法

### 2-1 システマティックレビューの意義と方法

本研究では、ガイドラインである Preferred Reporting Items for Systematic Review and Meta-Analysis (PRISMA) 声明に基づいて作成されたチェックリストを用い、体系立てたシステマティックレビューを行う(卓ら2011)<sup>12)</sup>。質的研究をシステマティックレビューすることの重要性は国際的にも、強く認識されるようになってきている<sup>13)</sup>。

一般的に、質的研究では、システマティックレビューによる先行研究の抽出とメタ統合を組み合わせる。メタ統合では、システマティックレビューによって抽出された先行研究を著者が読み、その先行研究の結果の中で提示された概念を著者が文章として書き出し、その文章の統合、分類を行う。このメタ統合の過程は、著者の手作業となり、著者の主観や恣意性などが入り込む可能性があり、決して客観性・妥当性が高いとは言えない。

本研究では、先行研究をメタ統合する方法として、システマティックレビューによる手法で収集した先行研究のタイトルとアブストラクトのテキスト・データをテキスト・マイニングによって分析する。そして、共起ネットワークによって、園庭の先行研究から、どのような語と語が結び付けられて使われているのかを明らかにすることで、より網羅的に分析を行う。システマティックレビューで先行研究を抽出するまでは従来と同じであるが、抽出された先行研究から概念を抽出する過程の客観性と妥当性を高めるために、抽出した先行研究すべてのタイトルとアブストラクトをそのまま使い、テキスト・マイニングによって構成要素を抽出する手法をとっている。この方法は他に例を見ない。

### 2-2 KH Coder を用いた分析方法

KH Coder とは、社会調査の分野における、テキスト型データを統計的に分析するためのソフトであり、樋口(2004)14によって開発され、テキスト・データで用いられた語彙の特徴やその関連性から、意識や観点等を統計的に分析するものである。本研究では、その中の(1) 頻出語と(2) 共起ネットワークを用いて分析を行っている。共起ネットワークでは、出現数の多さがプロットの大ききで示され、その

出現パターンの強さを線で結んだネットワークが描かれる。

近年、様々な分野で KH Coder を利用した応用研究が蓄積されているが、樋口 (2017) は、「分析から明らかにしたい問い」「比較の枠組み」、「注目する概念・言葉」を分析を始める前の段階で設定し、この三つをすべて設定していた研究は、分析の結果が出るとともに研究の結論がほぼ定まっていると分析している<sup>15)</sup>。また、「分析すれば何か意味のある結果が出るだろう」という取り組み方は推奨しておらず、より確実に研究の成果をあげるには、この三点をなるべく具体的に設定してから分析を始めることを勧めている。この指摘に倣えば、本研究における、「分析から明らかにしたい問い」は、「これまでの園庭研究は、何に着目し、何を明らかにしたのか。」である。また、「注目する概念・言葉」は、「援助 (care)」「経験 (experience)」「思い (thought, feeling, desire, emotion 等)」である。なぜならば、本研究に先んじて行った我々の研究での保育者への問いは「園庭での子どもの豊かな経験」<sup>7)</sup>と「園庭での子どもの思いを捉えた援助」<sup>8)</sup>であり、国内外の研究動向にこの二点がどのように位置づくのかという「比較の枠組み」を考察することとなり、新たな知見が見出せると考えるからである。

### 2-3 分析手続き

文献管理ツールである Mendeley<sup>注4)</sup> を利用し、「playground」「child」をキーワードを検索して抽出された、1904 年から 2020 年に出版された国内外の先行研究、1,210 件を分析対象とした。検索の作業期間は、2021 年 2 月 21 日～3 月 3 日である。そのうち、英文以外の論文を除外して、1,129 件に絞り込んだ。なお、「園庭」の英語表記には「playground」「nursery school's ground」「garden」「yard」が見られるが、「playground」と英訳することが一般的であると捉えたため<sup>注5)</sup>、本研究では、園庭の英語表記は多様であることを踏まえつつ、園庭を「playground」と訳し、検索ワードとした。

次に、抽出した 1,129 件の先行研究のタイトルとアブストラクトから、「preschool」「care center」「toddler」「infant」「early child」「kindergarten」を検索して、乳幼児を対象とした研究を抽出し、318 本に絞った。そして、KHCoder3 を利用して、抽出した 318 本のタイトルをテキスト・マイニングした。その際には、以下のように調整をした。

1. 通常、語を組み合わせて使用する保育関係の用語 (「special needs」「care center」「early childhood」「year old」「united states」) を強制抽出した。
2. 抽出された語の 100 位以内に挙がった、前置詞 (「of」「in」「for」「with」「on」「at」「as」「from」「by」)、定冠詞 (「a」「an」「the」)、Be 動詞 (「is」「are」「be」)、部分的に使用されている英語以外の語 (「tk」「et」「y」「di」「de」「la」「s」「y」)、固有名詞 (「Dhaka」)、記号が転換されて抽出された語 (「lsb」「rsb」「lcb」「rcb」)、検索ワードである「playground」「child」を除外した。

以上のような手順で抽出した語をテキスト・マイニングし、共起ネットワークを描いた。その際は、最小出現数 10 語、上位 60 語に設定した。

## 3. 結果及び考察

### 3-1 頻出語

頻出語 (一部) の種類と出現数を表 1 に示す。

表1 頻出語の種類と出現数 (一部)

activity	43	preschooler	22	case	11
play	42	behavior	19	education	11
preschool	42	development	15	role	11
study	39	early childhood	15	safety	11
environment	38	skill	14	space	11
social	34	environmental	13	young	11
intervention	26	care	12	analysis	10
care center	25	parent	12	classroom	10
outdoor	23	resilience	12	interaction	10
injury	22	year	12		

### 3-2 共起ネットワーク

図のような共起ネットワークが描かれ、8つの subgraph が抽出された。

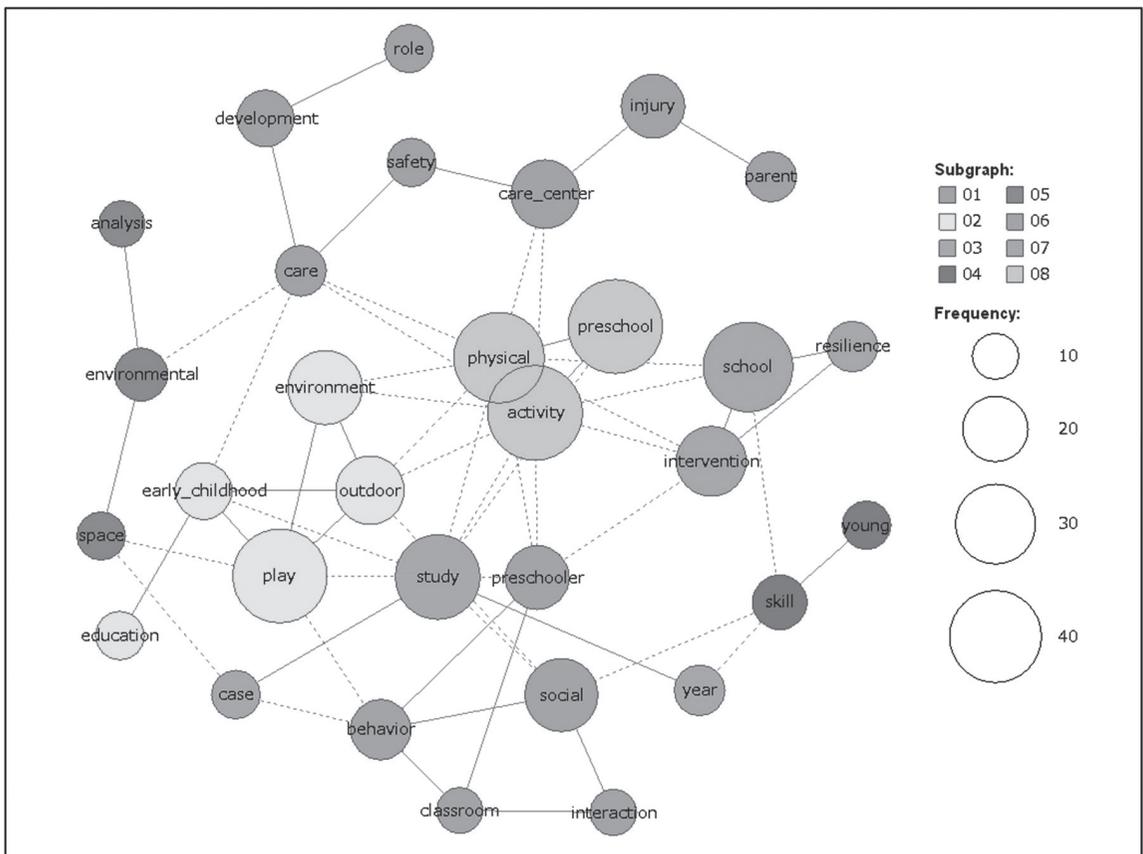


図 共起ネットワーク

### 3-3 蓄積された国内外の園庭研究の構成要素と動向

各 subgraph で共起された語が、タイトルとアブストラクトに使用されているすべての論文を抽出して、精読し、ラベル付けを行った。その際は、研究対象を乳幼児とし、保育施設の園庭について言及しているものに特に着目し、各研究に付したラベルと各語のつながり具合を手掛かりにして、園庭研究の構成要素を導き出した。その結果を以下に述べる。

Subgraph01 では、「parent」「injury」「care\_center」「safety」「care」「development」「role」から共起ネットワークが構成されている。「injury」の前後の文脈を見ると、保護者である両親が園庭での子どもが怪我することへリスクや安全性への理解の程度に関する研究が多いことが示唆されている。さらに、「role」の文脈をみると、園庭自体や園庭が媒介することによって生み出される教育的な役割に関して述べられた文章が示された。さらに、これらの二つの語のネットワークを、「care」がつかない点も興味深い。ケガなどのリスク・安全性と教育的な役割、二つの異質なネットワークは、いずれにおいても保育者の「care」が重要な役割を担っていることが明らかになった。そこで、本研究では、この Subgraph01 を「園庭でのケガのリスクと身体的発達への効果に対する保育者の意識の重要性」と名付けた。

Subgraph02 では、「play」「outdoor」「environment」「early childhood」「education」が共起ネットワークで構成されている。「play」の前後の文脈を見ると、3歳から8歳を対象とした研究もみられたが、自然環境や遊具、遊び内容・方法の充実に関する研究が多く、研究成果として、子どもの心理に及ぼす影響、社会性の変化、遊びの質の変化、発達に即した遊びの促進が示唆されている。「environment」については、保育園や家庭、学校やコミュニティパークなど、場所に関するものが多かったが、天候などの自然環境に関する研究もあった。また、「early childhood」と「education」が共起しているが、危険な遊びに関する職場のコミュニケーション環境、子どもの権利、多様な自然要素に関する学び、安全・健康面で訓練を受けた教師の存在について示された。そこで、本研究では、この Subgraph 02 を「屋外遊びに必要な環境と子どもの育ちの可能性」と名付けた。

Subgraph 03 では、「study」「case」「year」から共起ネットワークが構成されている。「study」の前に用いられている単語は、「multilevel」「pilot」「case」「descriptive」「longitudinal」「action research」「nationwide」等が挙げられ、「case」は「case study」「case report」が殆どと、研究においてどのような調査方法が用いられているかが示されている。「year」については、研究対象の年齢を限定するために用いられていた。そこで、本研究では、Subgraph 03 を「園庭での子どもの年齢的な特徴を探る様々な研究方法」と名付けた。

Subgraph 04 は、「young」と「skill」のみで構成されている。「skills」の文脈を概観すると、「motor」や「language」などと結びついており、young children の時期に発達する様々なスキルについて、園庭での経験が与える影響について述べられている文章が多くみられ、幼児が園庭で活動を進めることの意義について示唆している。そこで、本研究では、Subgraph 04 を「園庭で発達する子どもの多様なスキル」と名付けた。

Subgraph 05 は、「analysis」「environmental」「space」で構成されている。「environmental」については、環境的予測因子、環境要因、環境改善、環境心理学として使用されている。「space」の前後の文脈を見ると、インクルージョンや遊び場の管理、子どもの身体活動を促進するための屋外空間づくりとその評価、放課後児童館の空間利用、就学前のスペース、空間と友達に関するアイデンティティー、生活環境に関する文章が示された。そこで、本研究では、Subgraph 05 を「子どもの遊びや生活に必要な物理的・心理的空間の分析」と名付けた。

Subgraph 06 では、「social」「behavior」「interaction」「classroom」「preschooler」から共起ネットワークが構成されている。「social」の前後の文脈を見ると、「behavior」や「interaction」との結びつきが強く、

屋外遊びにおける行動特徴や友達との相互作用の様相を通して、子どもたちがどのように社会的認知や社会的スキルを獲得しているのかを分析していることが示された。また、「social」「behavior」「interaction」のいずれかで構成されている研究には、障害のある子どもや問題行動を示す子どもを対象としているものも多く見られ、保育者や教師の援助・支援や介入プログラムに言及しているものもあった。「classroom」は「playground」と比較検討を行っている研究がほとんどであった。そこで、本研究では、Subgraph 06を「園庭での子どもの社会的行動や相互作用の分析」と名付けた。

Subgraph07では、「school」「intervention」「resilience」から共起ネットワークが構成されている。該当する先行研究には、家庭での「childcare」に対して施設型の childcare（保育施設での集団保育）として、「school」と表記している研究や、就学前の子どもと小学校低学年の子どもを含めて「early child」と表記して調査対象としている研究が散見された。また、調査対象を小学生とし、幼小接続の観点から、幼児期の playground での遊びと小学校入学後の生活との関連を研究している研究が多いことも示されている。また、「child care center」で学童保育を行っており、保育所で放課後の時間を過ごしている小学生を対象とし、保育所での playground での活動を表している研究があった。そして、介入（intervention）プログラムの効果に関する研究が多数見られた。「intervention」が「physical」「activity」をもつないでいるように、介入プログラムの実施前後で子どもの resilience や運動量、攻撃性等を子どもの園庭での姿から評価し、実証している。以上の分析から、Subgraph07を「小学校生活を踏まえた保育施設への介入プログラム導入効果」と名付けた。

Subgraph08は、「physical」「activity」「preschool」から、共起ネットワークが構成され、相互に関連している。「outdoor」「study」「care center」「care」「school」「intervention」とも関連し、高い頻度で共起されている。抽出された論文は、「子どもの園庭での身体的活動と関連する要素」を問うものが多く、関連する要素として、保育者が子どもを励ます態度や身体活動に対する保育者の認識といった保育者側の要素と遊具や砂場、植生などの物理的要素が見られた。さらに、子どもが園庭に滞在している時間や園の保育方針、外部機関による介入プログラムの実施等、関連する要因は多岐にわたっていた。以上から、Subgraph08を「子どもの身体活動を促す保育者の認識と物理的的要因」とした。

#### 4. 考察と今後の課題

園庭研究の構成要素の分析結果から、以下のように考察された。

第一に、Subgraph01,08の結果より、園庭での子どもの安全性と園庭の教育的な役割、子どもの身体活動と保育者の援助（「care」）・意識・態度の重要性の関連を探究しているという点である。

第二に、わが国の園庭研究には見当たらないとした、「園庭そのものの質の観点から検討した研究」<sup>4)</sup>を、我々は、保育者の立ち位置に近づいて探求してきた<sup>7,8)</sup>。しかし、本研究で、システマティックレビューを行った結果、「園庭での子どもの現状と関連する要素は何か」「現状に対して介入プログラムは有効か」等、子どもの現状を客観的に捉えることから出発して、その関連する要因を多様な視点から探究する研究や、現状を改善することを目的としたプログラムの成果を実証する研究が蓄積されていることが明らかになった（Subgraph05,07,08）。

また、以下の二点を考慮して、システマティックレビューを繰り返すことにより、園庭研究の全体像に近づくのではないかと考えられ、今後の課題としたい。

第一に、調査対象を6歳から9歳や3歳から8歳として、就学前の幼児と小学校低学年の子どもを「early child」として、同一の集団にして調査研究している動向が見られる点である。

第二に、「園庭」を表す英語表記には多様性が見られるという点である。例えば、Mendeley を活用して、「garden」と「child」で検索すると、3,459件がヒットし、「yard」と「child」で検索すると946件、他に「kindergarten yard」や「preschool garden」なども見られた。本研究では、「playground」を採用し

たが、「garden」や「yard」で検索をした場合には、また、別の結果が見いだされることが推測できる。

## 5. 資料

本研究の分析対象研究を以下の表2.にまとめた。なお、論文全体の枚数の関係上、2017年以降のもののみ抜粋している。

表2 分析対象研究一覧 (2017年以降発表のみ)

著者名	タイトル	出版年
Oh-Young C.	A comparison of the effects of peer networks and peer video modeling on positive social interactions performed by young children with developmental disabilities.	2017
Bardosono S., Hildayani R., Chandra D., et al.	Bonding development between parents and children through playing together to improve family happiness	2017
Stanton-Chapman T., L. Schmidt E. L.	Caregiver perceptions of inclusive playgrounds targeting toddlers and preschoolers with disabilities: has recent international and national policy improved overall satisfaction?	2017
Bateman A., Church A.	Children's use of objects in an early years playground	2017
Sandseter E., Brussoni M., et al.	Children's risky play in early childhood education and care	2017
True L., Pfeiffer K., et al.	Motor competence and characteristics within the preschool environment	2017
French S., Sherwood N., Mitchell N., Fan Y.	Park use is associated with less sedentary time among low-income parents and their preschool child: the net-works study	2017
Dealey R. P.	Play in schools: an investigation of school social workers' perceptions and experiences	2017
Bae S., Lee J., Kim K., et al.	Playground equipment related injuries in preschool-aged children: emergency department-based injury in-depth surveillance	2017
Logan S., Lobo M., et al.	Power-up: exploration and play in a novel modified ride-on car for standing	2017
Katz C., McLeigh J. D., et al.	Preschoolers' perceptions of neighborhood environment, safety, and help-seeking	2017
Strein W., Kuhn-McKearin M.	School function assessment	2017
JohnNewson E.	Seven years old in the home environment	2017
Scheller R., Johnson L., et al.	Sudden collapse of a preschool-aged child on the playground	2017
Goto M., Yamamoto Y., Saito R., Kusuhara K.	The effect of environmental factors in childcare facilities on the association between infantile obesity and lifestyle; a multivariate multilevel analysis	2017
Sahadeevan Y., Tan Y., Y.Fareez W., Mooi S. S.	A double trouble: pyogenic iliopsoas abscess with hip septic arthritis in a 10 year-old child	2018
Mazzucchelli T. G.	Applications of positive parenting: an introduction	2018
Simoncini K., Elliott S., et al.	Children's right to play in papua new guinea: insights from children in years 3-8	2018
Zviel-Girshin R., Rosenberg N.	Educational technology for pre-k digizens	2018
Morrier M. J., Ziegler S. M.	I wanna play too: factors related to changes in social behavior for children with and without autism spectrum disorder after implementation of a structured outdoor play curriculum	2018
Erdem D.	Kindergarten teachers' views about outdoor activities	2018
W. A.	Lifestyle factors, overweight/obesity and related disorders over the life-course of children-observations of the idefics/ i. family cohort	2018

Liew J., Cameron C. E., Lockman J. J.	Parts of the whole: motor and behavioral skills in self-regulation and schooling outcomes	2018
RAHMAWATI I.	Pengaruh kualitas layanan terhadap keputusan pemilihan tempat pendidikan (studi pada tk raudlatul jannah pepelegi waru - sidoarjo)	2018
Behaviors B.	Social & behavioural sciences ich & hpsy 2018 4 th international conference on health and health psychology	2018
Tang C., Li L., Zhu J., Wang X., Li W., Hu J., Jing Y.	The occurrence and parents' cognition of accidental injury among pre-school children in nanchong city: a questionnaire survey	2018
Meuwissen A. S., Carlson S. M.	The role of father parenting in children's school readiness: a longitudinal follow-up	2018
Shafipour Yourdshahi P., et al.	The role of play space designs in nurturing children's creativity	2018
Wang X., Woolley H., Tang Y., Liu H., Luo Y.	Young children's and adults' perceptions of natural play spaces: a case study of chengdu, southwestern china	2018
Filanova T. V., et al.	A new approach to the design of preschool institutions	2019
Sumarni S., Pertiwi S., Rukiyah, Andika W., Astika R., et al.	Behavior in early childhood (2-3) years: a case study on the use of gadgets in social environments	2019
Ndari S., Chandrawaty C., et al.	Children's outdoor activities and parenting style in children's social skill	2019
O'Flaherty C., Barton E., et al.	Coaching teachers to promote social interactions with toddlers	2019
Nur Atika A., Khutobah, et al.	Early childhood learning quality in pandalungan community	2019
表記なし	Explorer babies early intervention program	2019
Ledford J., Barton E., et al.	Functional analysis and treatment of pica on a preschool playground	2019
J.F. A., C. S., C. J., J. S., B. B.	Human factors design of pediatric ventricular assist system	2019
Fitriani A., Kusuma C., et al.	Managemen pengelolaan kelas di tk kartika ii-26 bandar lampung	2019
Couper L., Rietveld C.	Moving from early childhood to primary school playgrounds	2019
Boyoh D.	Pengaruh terapi bermain mewarnai gambar terhadap tingkat kecemasan anak usia prasekolah akibat hospitalisasi di ruangan anak di rumah sakit advent bandar lampung	2019
Theobald M.	Scaffolding storytelling and participation with a bilingual child in a culturally and linguistically diverse preschool in australia	2019
Sari A. L., Nariyah H., Wihayati W.	Studi fenomenologi film animasi upin dan ipin di mnc tv dalam membentuk perilaku imitasi pada anak di tk al-muhibbin kecamatan sumber kabupaten cirebon	2019
Bader M. D., Lareau A., et al.	Talk on the playground: the neighborhood context of school choice	2019
Adams-Ojugbele R. O., Moletsane R.	Towards quality early childhood development for refugee children: an exploratory study of a grade r class in a durban child care centre	2019
Sanderud J., R.Gurholt K. P., Moe V. F.	'Winter children': an ethnographically inspired study of children being-and-becoming well-versed in snow and ice	2020
Lemish D., Elias N., Floegel D.	"Look at me!" parental use of mobile phones at the playground	2020
Watkins G. L.	An action research study of creativity and physical activity at a southern preschool through natural and synthetic loose parts for traditional playgrounds.	2020
JYTTE BANG	An environmental affordance perspective on the study of development - artefacts, social others, and self	2020
Sørensen H. V., Birkeland Å.	Children's explorative activities in kindergarten playgrounds: a case study in china and norway	2020

Kokkoni E., Mavroudi E., et al.	Gearing smart environments for pediatric motor rehabilitation	2020
Buchter J. M.	Large group video modeling: increasing social interactions in an inclusive head start classroom.	2020
Clements D.	Mathematics in preschool	2020
Bertrando S., Vajro P.	Nafid at the interface of the mother-infant dyad	2020
Martens D., Molitor H.	Play in appropriate natural environments to support child development	2020
Chen C., Ahlqvist V., Henriksson P., et al.	Preschool environment and preschool teacher's physical activity and their association with children's activity levels at preschool	2020
Schenkelberg M., et al.	Preschool environmental influences on physical activity in children with disabilities	2020
Veiga G., O'Connor R., et al.	Rough-and-tumble play and the regulation of aggression in preschoolers	2020
Barbosa R. F. M., da Silva Camargo M. C., da Silva Mello A.	The complexity of playing in early childhood education: reflections on the ludic-aggressive play	2020
Mishra P., Close K.	The value of school	2020
Santoyo C., Jonsson G., et al.	T-patterns integration strategy in a longitudinal study: a multiple case analysis	2020

## 参考文献

1. 樋口耕一「社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して— 第2版」ナカニシヤ出版 2020年
2. 平林由広「メタアナリシス～"Review Manager"ガイド～」克誠堂出版. 2014年

## 引用文献

- 1) 小池孝子、定行まり子「都市部における保育施設の屋外保育環境について」日本建築学会計画系論文集 第73巻 第628号 pp.1197-1204. 2008年
- 2) 荻須隆雄「子どもの発育・発達に及ぼす公園の利用に関する研究—2017年度—保育所待機児童対策の課題—保育所等による屋外遊戯場（園庭）の代替施設としての公園の現状—」一般社団法人日本公園施設業協会共同研究（2017）年度 2017年
- 3) 山田千愛、實川 慎子、高木 夏奈子、栗原 ひとみ、高野 良子、小池 和子「園外活動における子どもの発達を促す地域環境：散歩を通じた子どもの育ち」植草学園大学研究紀要 11巻, pp.53-63. 2019年
- 4) 秋田喜代美、辻谷真知子、石田佳織、宮田まり子、宮本雄太「園庭環境の調査検討—園庭研究の動向と園庭環境の多様性の検討—」東京大学大学院教育学研究科紀要 第57巻 pp.43-65. 2017年
- 5) 石倉卓子、竹田好美、岩城愛、水島志穂子、横田美咲「認定こども園の園庭における遊びの質を考える—保育教諭がとらえた幼児の経験から—」. 富山国際大学子ども育成学部紀要. 第10巻. 第2号. pp1-25. 2019年
- 6) 秋田喜代美・石田香織・辻谷真知子・宮田まり子・宮本雄太「園庭を豊かな育ちの場に 質向上のためのヒントと事例」. ひかりのくに. pp.18-35. 2019年
- 7) 竹田好美、香曾我部琢、石倉卓子、中田範子「認定こども園の園庭における幼児の豊かな経験-自由記述のテキスト・マイニングによる分析より-」宮城教育大学情報処理センター研究紀要. COMMUE. 第27巻. pp.31-39. 2020年
- 8) 石倉卓子、香曾我部琢、竹田好美、中田範子「認定こども園の園庭における保育者の援助の方略の多様性：自由記述のテキスト・マイニングによる分析より」宮城教育大学情報処理センター研究紀要. COMMUE. 第27巻. pp.23-30. 2020年
- 9) 上田敏丈「保育者は保育カンファレンスを行うことで何を学ぶのか—質的研究のメタ統合の試みから—」保育学研

究第56巻第3号. pp235-239. 2018年

- 10) 香曾我部琢「保育における”非認知スキル”研究の現状と課題—システマティックレビューに向けての予備的調査として—」宮城教育大学紀要第54巻, pp315-320. 2019年
- 11) 辻本清子「エビデンスに基づく看護実践のためのシステマティックレビュー」日本看護協会出版会. 2013年
- 12) 卓興鋼, 吉田佳督, 大森豊緑「エビデンスに基づく医療 (EBM) の実践ガイドライン システマティックレビューおよびメタアナリシスのための優先的報告項目 (PRISMA 声明)」情報管理. 第54巻. 第5号 pp.254-266. 2011年
- 13) 今野理恵「質的研究のシステマティックレビューの国際的動向」日本看護研究学会雑誌. 第39巻3号. p.82. 2016年
- 14) 樋口耕一「テキスト型データの計量的分析 —2つのアプローチの峻別と統合—」理論と方法. 第19巻第1号. 数理社会学会. pp101-115. 2004年
- 15) 樋口耕一「計量テキスト分析およびKHcoderの利用状況と展望」社会学評論. 第68巻第3号. pp.334-350. 2017年

## 注

- 注1) 東京都K市の保育所40園のうち、「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」に示す、屋外遊戯場の面積は、園児1人あたり3.3㎡以上とするという基準を満たさない園は21園あり、通知が発出された翌年以降に設立された園の約6割が基準を満たさない狭小な園庭を有する保育施設である。(2021年3月20日情報取得。各園の発表する定員と園庭の面積から算出)
- 注2) 「1.待機児童解消に向けた児童福祉施設最低基準に係る留意事項」(2)屋外遊戯場については、「児童福祉施設最低基準においては、満2歳以上の幼児を入所させる保育所は屋外遊戯場を設けることとされているが、併せて、屋外遊戯場に代わるべき公園、広場、寺社境内等が保育所の付近にあるのであれば、これを屋外遊戯場に代えて差し支えない旨も検討されているところである。」と記載されている。
- 注3) 2011年、「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律」及び関連法令が施行、公布されたことに伴い、「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」と名称が変更され、全国一律に定められていた、保育施設の設備や運営が条例で定められることとなった。条例を制定するにあたっては、「従うべき基準」、「標準」の他「参酌すべき基準」を設けることとなった。現在は、2016年発表の厚労省「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準の一部改正の取扱いについて」を経て、園庭の代替施設として、屋上を園児の活動の場として利用できることとなった。
- 注4) Mendeleyは、学術論文や研究データの保存、整理、メモ、共有、引用をサポートする文献管理ツールである。日本語論文の対応は十分ではないものの、主に国外のあらゆる分野の学術研究論文が蓄積され、随時更新されている。  
<https://www.mendeley.com/search/>
- 注5) Ciniiを利用し、「園庭」「幼児」をキーワードとして検索をかけたところ、88件が抽出された。そのうち、タイトルやabstractに英訳が付されたもの42件の「園庭」の英語表記を確認した。その結果、「playground」が23件、「nursery school's ground」が7件、「garden」が5件、「yard」が3件、タイトルに「園庭」が記されているものの英語表記には園庭に該当する表記がなく、「outdoor play」「play action」といった表現をしているものが4件見いだされた。(2021年3月20日検索実施による)

## 付記

本研究は、JSPS 科研費 JP20K02636 (課題名「保育施設の狭小な園庭を活用する保育者の資質向上プログラムの開発」) の助成を受けたものである。また、本研究の分析対象研究リスト作成にあたっては、東京家政学院大学現代生活学部児童学科4年劉曉陸さん(原籍校:吉林外国語大学外国語学部日本語学科)に補助的な作業を担っていただいた。

(受付 2021.3.25 受理 2021.6.29)